

神奈川県立金沢養護学校



学校だより

第101号 平成27年7月17日

「安心・安全な学校」をめざして Part 2

教頭 向井 博幸



梅雨の合い間の6月30日に今年度2回目の避難訓練が行われました。今回は、津波想定ですので、テーマは「協力して、いかに迅速・安全に全員が2Fに避難するか」というものでした。この訓練は、ここ数年取り組んでいるもののひとつで、昨年度末に、金沢消防署の署員さんが来校してくださり、防災・減災上のアドバイスをいただいた際に、「津波の大きさや時間的余裕など、そのときの状況にもよるが、学校外の高所への避難だけでなく、校舎内の2Fをいかに活用するかという視点も大事ですよ！」という指摘もいただきました。

この訓練に先立って、先月22日(月)放課後には、応援職員をまじえたメンバーでA部門の児童生徒の車いす(人の乗っていない状態で)を、安全に2Fに上げる研修も行っています(写真参照)。

A部門児童生徒の車いすには1台1台に、持ち上げる際手でつかむ位置にすべてビニールテープのマーキングがされています。研修の中では、ふだん車いす操作になじみの少ないB部門の応援職員にも、手でつかむ位置の把握、移動時の車いすの向き、安定性を図るコツなどしっかり理解してもらいました。

そして、迎えた30日(火)の避難訓練当日、午前10時20分に緊急地震速報受信装置の訓練放送が流れ、副校長の指示により、まずその場で身を守ること、続く「大津波警報の発表」によって、1Fにいる児童生徒は順次2Fへの移動避難を行いました。訓練は、終始スムーズに展開され、10時35分過ぎには、A部門の児童生徒全員が2Fに避難することができました。消防署の方からは、「実際の場面では、廊下窓のガラスが飛散するでしょうから、移動する際、それを避けながら進むこと」、また「津波災害は、水だけでなくいろいろな浮遊物も流れてきます」というような具体的なアドバイスもいただきました。

少し前のことになりますが、私は、元釜石市立釜石東中学校長による、東日本大震災時の体験談を、講演として聴く機会がありました。その中で、講師のおっしゃった教訓の中の2点である「防災教育の大切さ」、「何事にも真剣に取り組む姿勢」を肝に銘じて、本校なりの防災・減災教育をいかに向上させていくか、学校として考えていきたいと思えます。

さて、学校はまもなく夏休みに入ります。長いお休みですから、外出をしたり、地域の施設や事業所で夏のプログラムに参加したりすることもあるでしょう。児童生徒には、ぜひ、そういった機会に、今学期、学校で学び、身につけた力を自分らしく発揮してほしいと願っています。

そしてまた、9月1日に元気な顔で会えることを楽しみにしています。

